

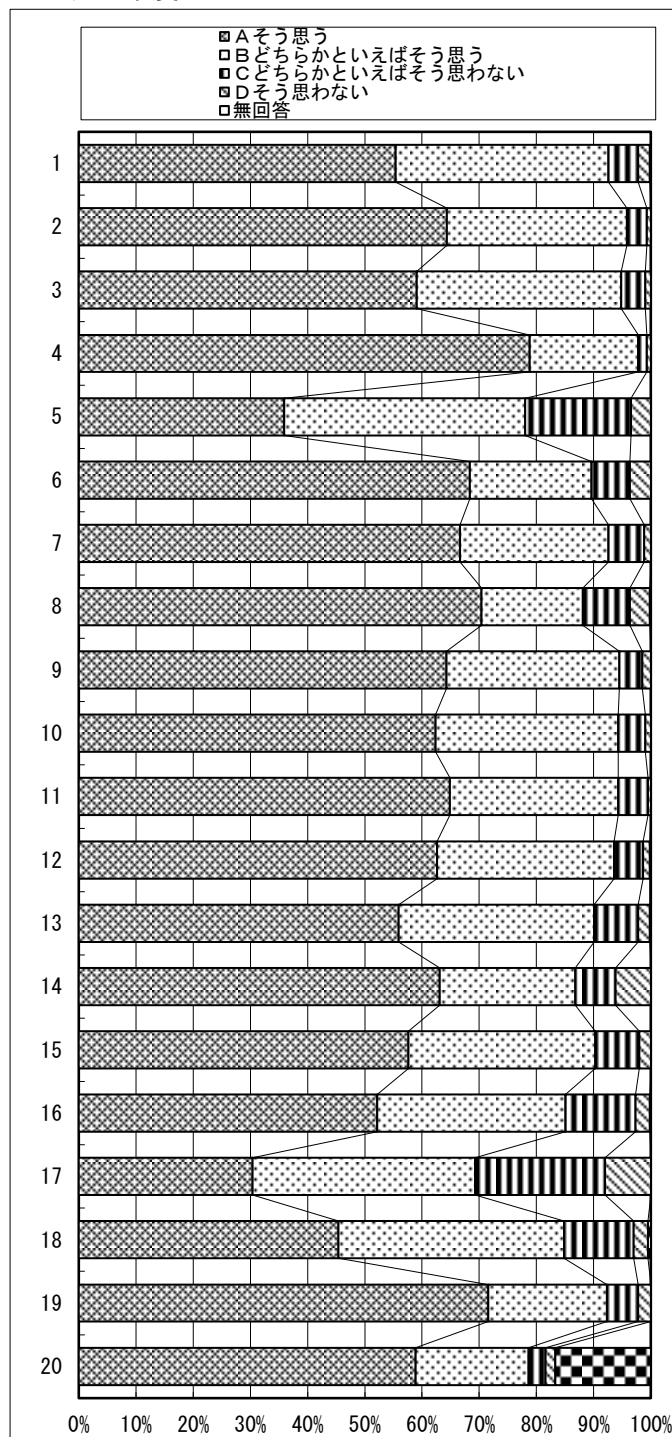
平成30年度

学校評価アンケートまとめ

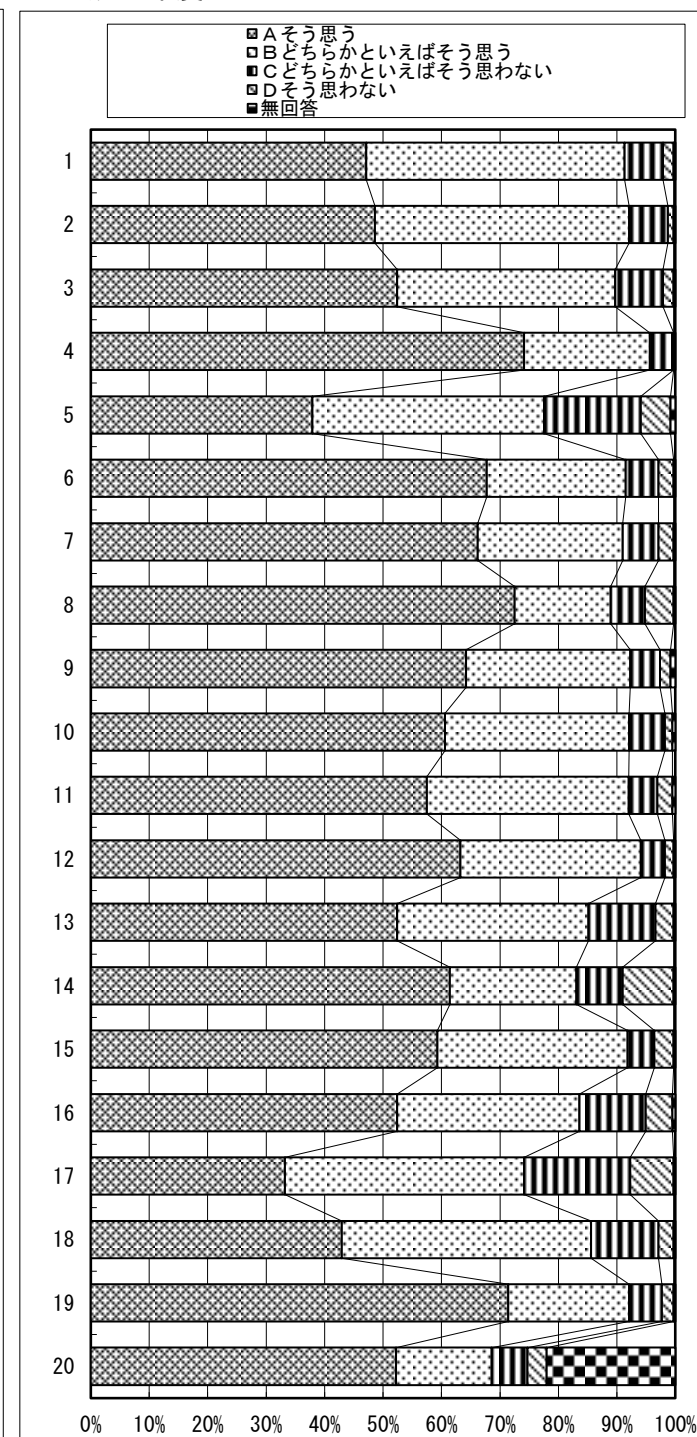
和歌山大学教育学部附属中学校

No.	質問内容
1	学校は、「豊かな心、やりぬく力」を目標に生徒を育てようとしている。
2	学校の授業は、充実している。
3	先生は、学習方法や学習で分からないところなどを指導してくれる。
4	先生は、コンピュータなどの教育機器や教具を活用するなど、工夫した授業づくりをしている。
5	先生は、通知表や懇談会だけでなく、普段から自分の学習の様子を伝えてくれている。
6	私は、学校の行事(附中杯や校内音楽会など)に満足している。
7	私は、学校に行くのが楽しく、明るく生き生きと生活している。
8	私は、1年間、学校生活で長期に悩むことはなかった。
9	私は、1年間、学校のルール(服装・身なり・時間など)を守って生活することができた。
10	先生は、「ときにはきびしく、ときには優しく指導してくれる」と思う。
11	学校は、職業体験学習や進路学習についての指導を十分にしている。
12	学校は、生徒の健康や安全管理(自転車通学など)についての指導を十分にしている。
13	私は、地震や火災のときにどのように避難したらよいか知っている。
14	私は、学校にスクールカウンセラーなど生徒の相談のってくれる人がいることを知っている。
15	先生は、気軽に相談のってくれている。
16	私は、学校から配られたプリント類は、必ず親に渡している。
17	私は、学校から出されるたより(学級通信や学年便りなど)は楽しみに読んでいる。
18	校内の掲示物は、いろいろと工夫されていると思う。
19	私は、学校の校舎、教室、机、いす、トイレなどの設備に不便を感じることがない。
20	私は、部活動に参加し、充実した生活を送っている。(部活動加入者のみ)

平成30年度

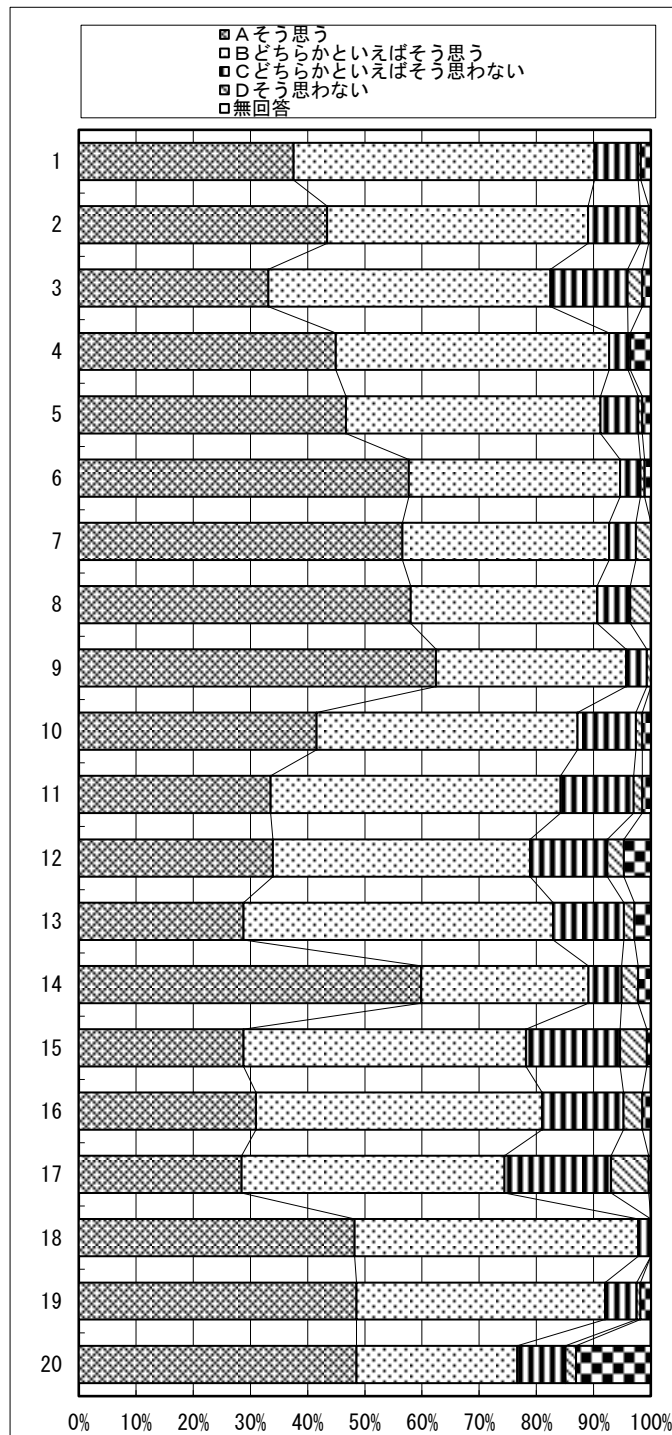


平成29年度

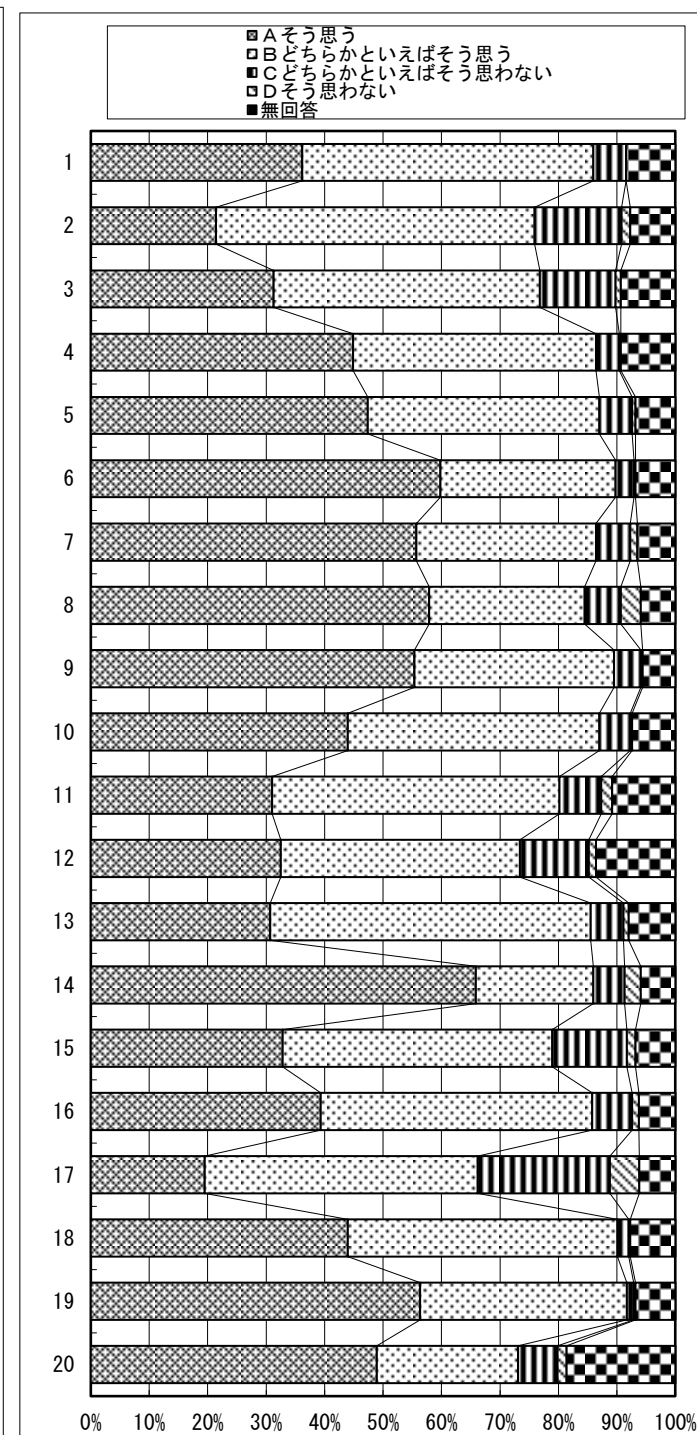


No.	質問内容
1	学校は、「豊かな心、やりぬく力」を目標に生徒を育てようとしていることが伝わる。
2	お子さんは、授業に意欲的に取り組んでいる。
3	学校の先生は、子どもの学習状況を良く理解し、支援してくれる。
4	学校の先生は、コンピュータなどの情報機器や教具を活用するなど、授業を改善しようとしている。
5	お子さんの学習状況は、通知表や懇談会を通してよくわかる。
6	学校は、行事や授業で、特色ある教育活動を推進しようとしている。
7	お子さんは、「学校へ行くのが楽しく生き生きとしている」と感じられる。
8	お子さんは、学校生活で長期に悩むことはなかった。
9	お子さんは、ルール（服装、身なり、時間など）を守って生活している。
10	学校の先生は、「ときには厳しく、ときには優しく指導してくれる」と感じる。
11	学校は、進路について、充分情報を提供し、適切な職業観の育成に取り組んでいる。
12	学校の先生は、お子さんの進路選択に向けて、親身になって相談してくれる。
13	学校は、生徒の安全や健康な生活についての対策を講じている。
14	「学校にはスクールカウンセラーなど生徒や親の相談にのってくれる人がいる」ことを知っている。
15	学校は、積極的に情報を提供し、保護者との連携を強化しようとしている。
16	各種の「たより（通信）」やホームページから、学校や生徒の様子がよくわかる。
17	保護者として、学校行事や懇談会・説明会、育友会活動に積極的に参加できた。
18	保護者としてお子さんを指導する際は、学校の指導に対して協力的な態度で臨んでいる。
19	学校は、教育活動に必要な条件や整備を充実させようとしている。
20	お子さんは部活動に参加し、充実した生活を行っている。 (部活動加入者のみ回答)

平成30年度

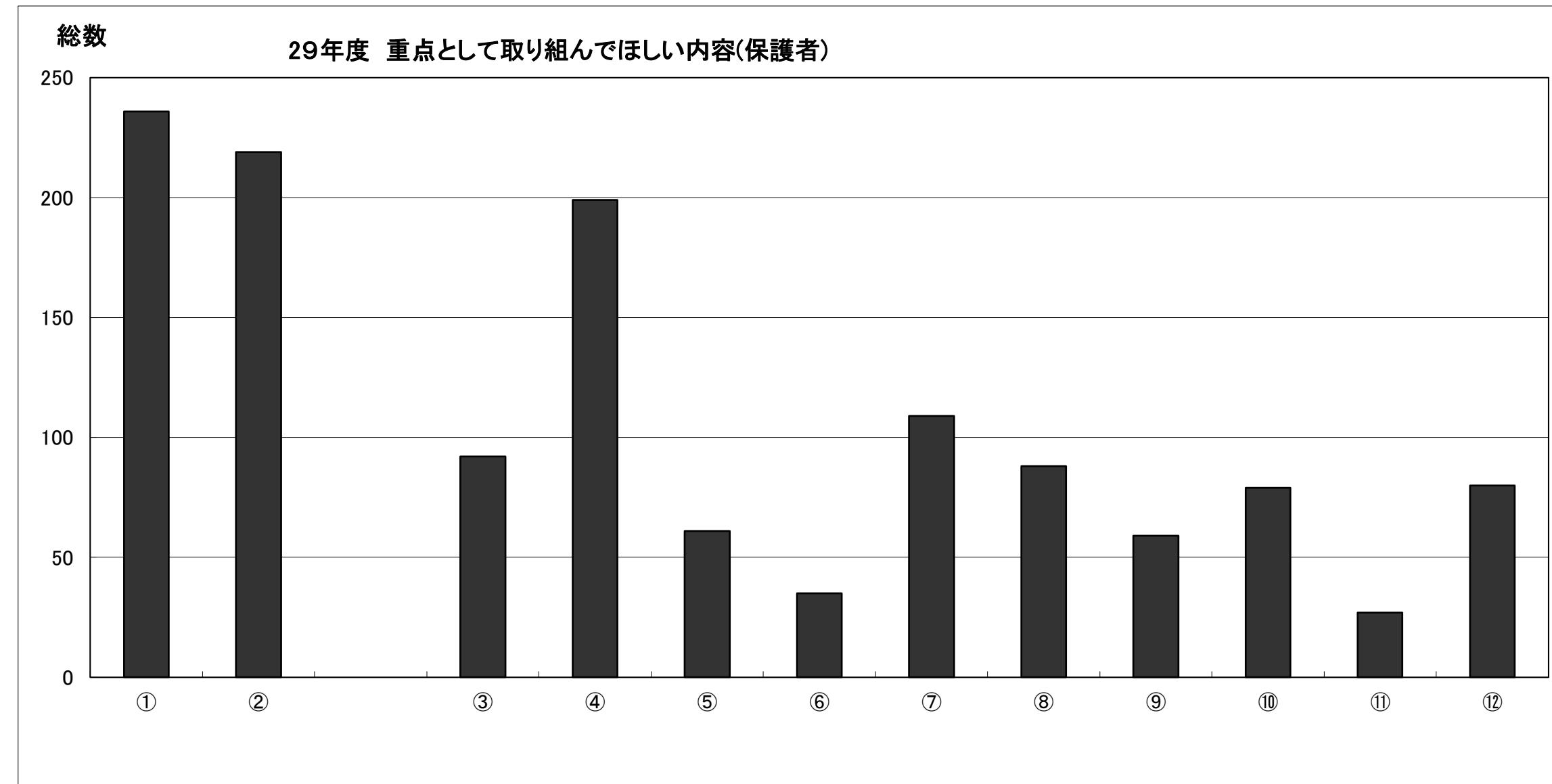
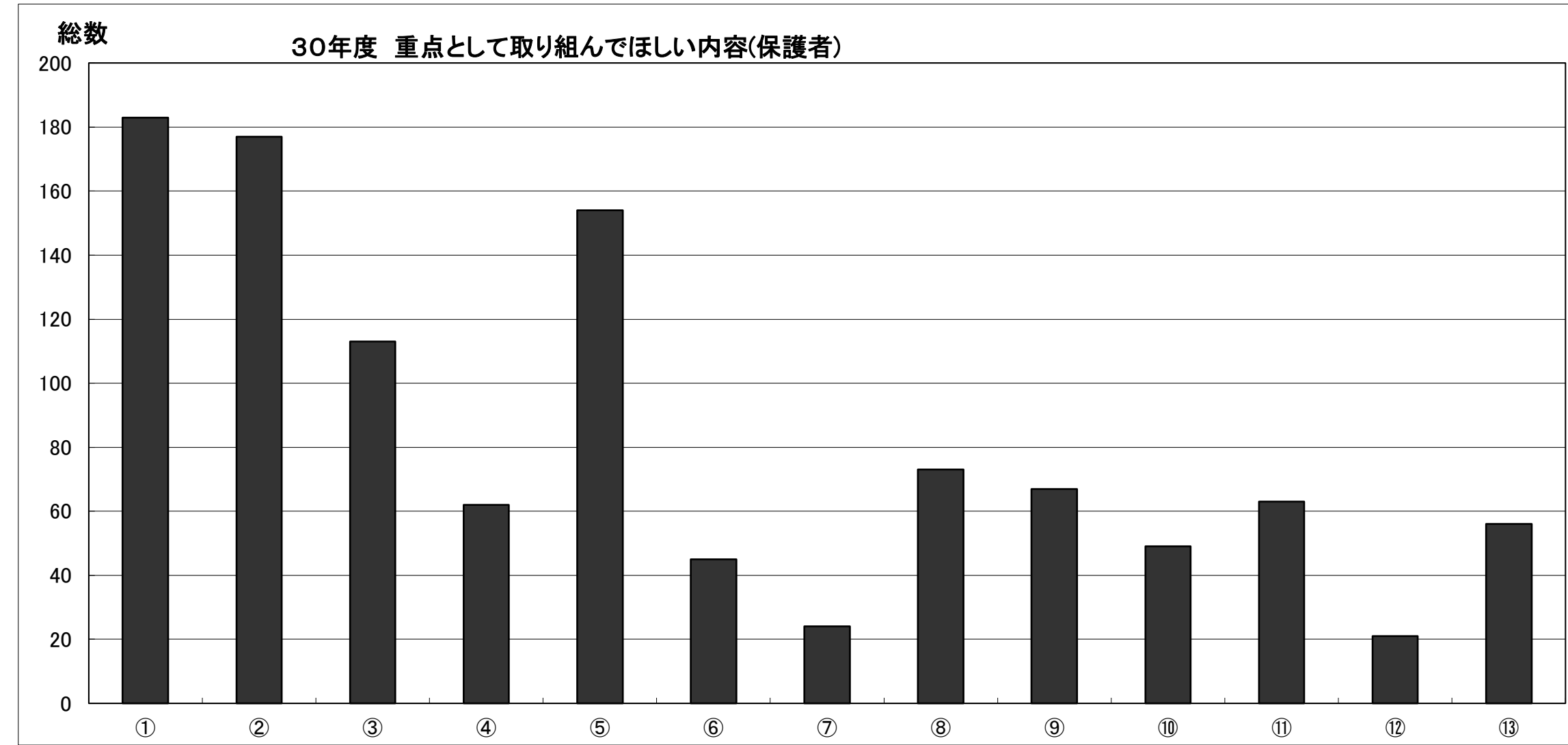


平成29年度



重点として取り組んでほしい内容 保護者

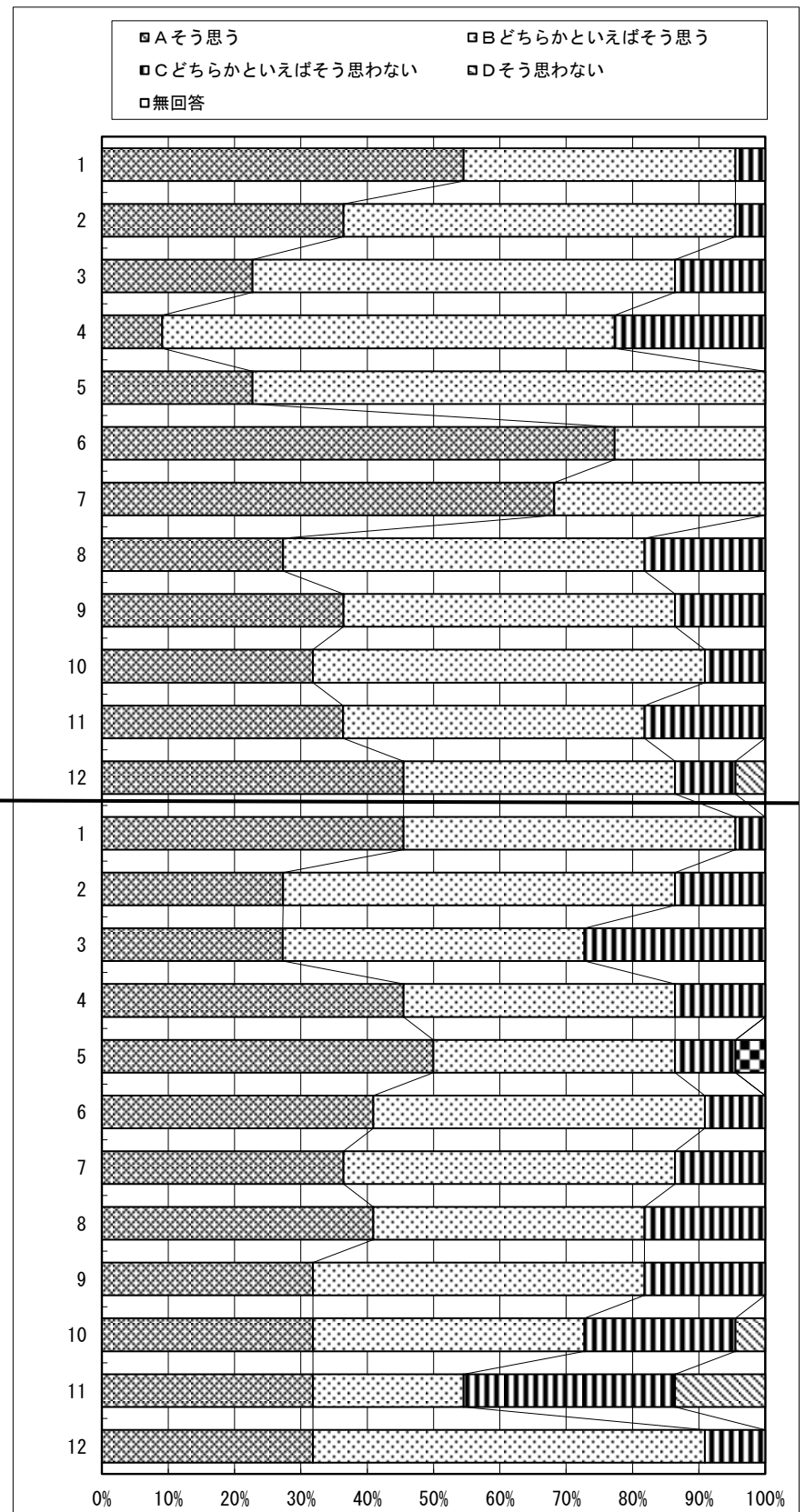
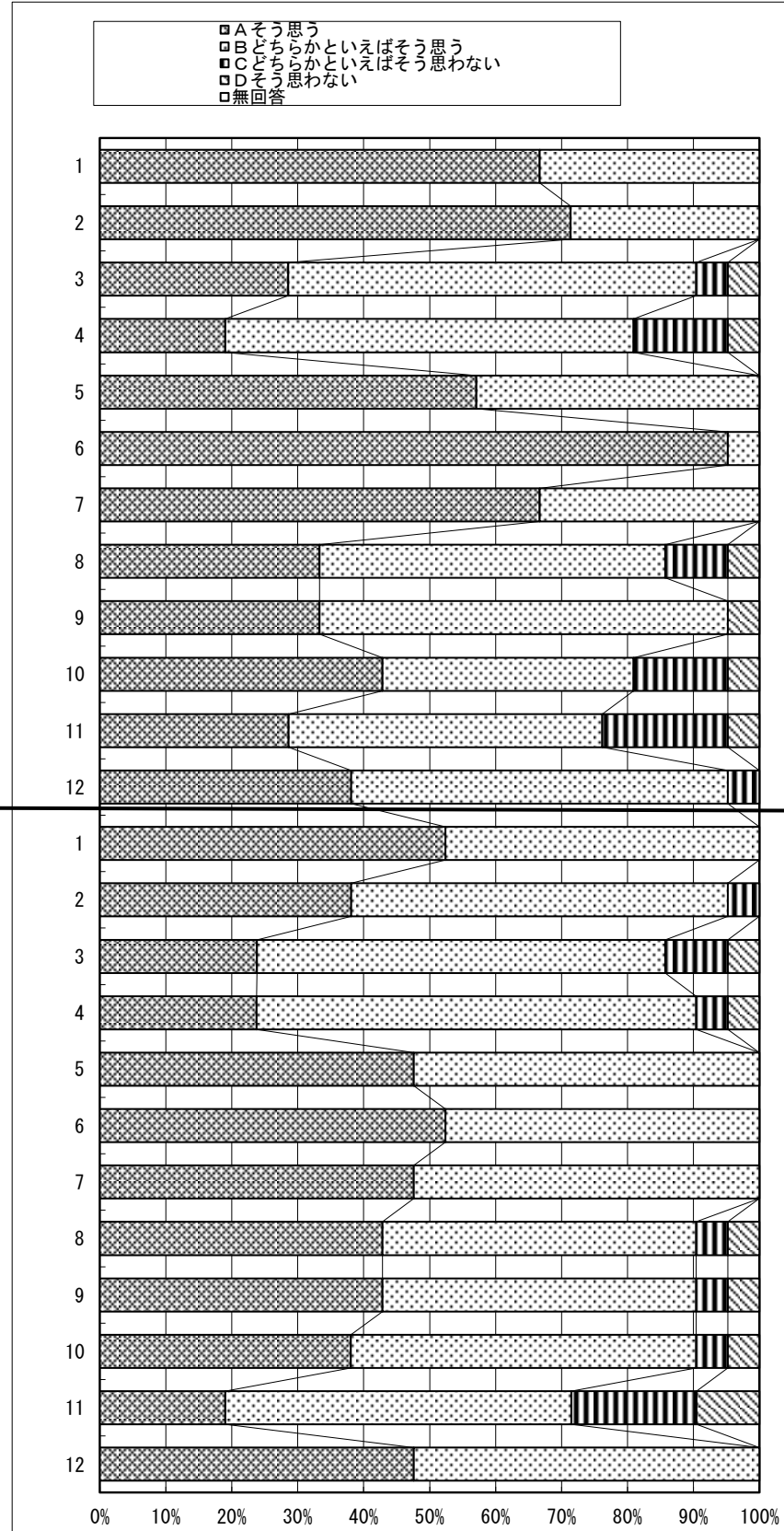
1	学力の向上と定着を図る教科学習の充実
2	自ら学ぶ力を高める総合的な学習の時間の充実
3	心を育てる道徳教育の充実
4	宿泊研修や行事などの体験的活動の充実
5	いじめのない温かな学年・学級づくり
6	服装、挨拶、時間厳守などの基本的な生活習慣の定着
7	生徒が自主的に活動する生徒会活動の充実
8	生徒理解や相談活動が出来る体制づくり
9	学校と家庭・地域の連携や信頼関係の強化
10	学校や教室環境などの整備・充実
11	部活動の充実
12	附属小学校や和歌山大学との連携強化
13	和歌山大学との連携強化



平成30年度

平成29年度

No.	質問内容
学校として	1 「豊かな心、やり抜く力」や目指す学校像を目標に、生徒を育てようとしている。
	2 附属学校として使命を十分に果たし、その特性を活かしている。
	3 教育計画に基づいて取組が進められ、その成果や課題が次年度に活かされている。
	4 校内委員会や校務分掌が適切に組織され、十分に機能している。
	5 生徒や保護者のニーズに応えた特色ある教育課程を編成している。
	6 校内研修が計画され、外部への公開授業や研修会などを積極的に実施している。
	7 学力の定着を図るために授業の改善や工夫など適切な学習指導を行っている。
	8 基本的な生活習慣の確立や身だしなみ指導など協力体制の下で行われている。
	9 生徒の健康の保持増進や、身体の安全を守る取り組みが十分になされている。
	10 生徒への教育相談が行われ、生徒の悩みや不安に対し支援が十分になされている。
	11 生徒や保護者に「各種のたより」やホームページにより情報を提供している。
	12 校舎や校庭、教育機器が十分に補修・維持・整備され、問題なく利用することができる。
職員個人として	1 「豊かな心、やり抜く力」や目指す学校像を目標に、生徒を育てようとしている。
	2 附属学校の職員としての使命を十分に果たし、その特性を活かしている。
	3 教育計画に基づいて取組を進め、その成果や課題を学校全体に反映できた。
	4 校内委員会や校務分掌の役割に責任を持って取り組み、計画的に実践した。
	5 生徒が興味を持って意欲的に学習に取り組めるような、教育内容、教材・教具等の工夫を行った。
	6 校内外の研修に積極的にに関わり、指導力や学校力の向上に努めた。
	7 学力の定着を図るため、目標に準拠した評価を行うとともに学習指導の改善を行った。
	8 基礎的な生活習慣の確立のために、適切な指導や助言、支援を行った。
	9 生徒の健康の保持増進や、身体の安全を守る指導を行った。
	10 生徒の悩みや不安に対して、積極的に応じることができた。
	11 学年・学級・教科などの通信を活用し、取組の様子を積極的に発信している。
	12 教育機器等を積極的に活用し、適切に管理、整備している。



学校評価アンケートについてのコメント

凡例 ○…読み取れる事実など、■…事実の解釈

【生徒】

昨年度との主な変更点

- ・質問2 「授業がわかりやすい」 → 「授業が充実している」に変更
- ・質問8 表現を一部修正

○平成29年度と比較すると、「1 教育目標」、「2 授業の充実」、「3 学習指導」、「11 進路学習」、「20 部活動」で、Aの回答が5%以上増加した。「3 学習指導」、「13 災害時避難」、「20 部活動」で、肯定的な回答（A+B）が5%以上増加した。肯定的な回答（A+B）が5%以上減少した質問はなかったが、「17 学級通信等」で4.8%減少した。

○Aの回答が60%以上であったのは11項目あり（平成29年度は8項目）、特に「4 工夫した授業づくり」（78.8）、「8 友人関係」（70.3）、「19 学校設備」（71.6）は70%を越えた。

○「8 友人関係」において、Dと回答し長期に悩んだ生徒の割合は昨年度に比べて1.4%低かった。昨年と同様、学年が進むにつれて少なくなる傾向にある（5.2、3.6、1.5）。

■全体的には、良好な評価を得ている。

○Aの回答が40%以下であったのは、「5 学習評価の伝達」（30.4）、「17 学級通信等」（35.9）の2項目であった。（平成28・29年度も同じ2項目）

○否定的な回答（C+D）が20%以上であったのは、「17 学級通信等」（22.0）と「5 学習評価の伝達」（30.7）の2項目であった。（平成29年度も同じ2項目）

○「5 学習評価の伝達」「17 学級通信等」「18 校内掲示物」について、他の質問項目に比べて、A及びA+Bの評価が低い。

■他の項目に比べて、「伝える」ことに関する評価が総じて低い傾向にある。

【保護者】

昨年度との主な変更点

- ・記名式から無記名に変更（学年、学級までの情報を取得）
- ・質問2 「授業がわかりやすい」 → 「授業に意欲的」に変更
- ・質問8 表現を一部修正
- ・学校への要望 これまで一括していた「総合的な学習」と「道德教育」を分割
- ・記述式の意見を廃止

○Aの回答が60%以上であったのは、「6 ルールを守る」1項目であった。（平成

29年度は1項目) (「14 スクールカウンセラーの認知」は59.9%)

○Aの回答が40%以下であったのは、「17 保護者の参加」「12 進路相談」「15 情報提供」「3 学習の支援」「13 安全や健康への対策」「11 進路情報提供・職業観」「1 教育目標」「16 通信・ホームページ」の8項目であった。

(平成29年度は9項目)

■無記名での初めての実施であったが、例年と比べて極端な変化はみられなかった。全体としては、昨年度に比べると無回答の割合が少なくなり、全体的に肯定的回答が増えた。各学年とも、回収率がやや低くなった。

○C及びDの回答(無解答を除く。)が20%以上であったのは、「17 保護者の参加」、「15 情報提供」の2項目であった。(平成29年度は1項目)

○重点として取り組んでほしい内容は、「①学力向上」が最も多く、「②総合的な学習の時間」がほぼ同数で続いている。さらに、「⑤いじめのない学年・学級」、「③道徳教育の充実」が続いている。その他は、昨年度とほぼ同じ状況である。

■例年と同様に、生徒の評価に比べて、保護者の評価は総じて低い傾向にある。広報とともに、学年や学級での取り組みを丁寧に伝える点において、保護者は今以上に期待していると考えられる。

【教職員(自己評価)】

昨年度との主な変更点

- ・質問4 表現を一部修正
- ・質問6 表現を一部修正

○平成29年度と比較すると、肯定的回答(A+B)の割合は、「職員個人として」について全項目で増加した。また、「学校として」についても10項目で増加した。

○学校全体として「6 校内研修・研究」(95.2)、「2 附属学校の使命を果たす」(71.4)、「1 教育目標」、「7 授業改善」でAと回答した職員の割合が60%を越えており、全員が肯定的な回答をしている。個人としては、「1 教育目標」と「5 教育内容の工夫」でAの回答が50%を越えた。また、肯定的な回答(A+B)の割合をみると、5問で100%、10項目で90%を越えた。

○学校全体としての「5 特色ある教育課程」、個人としての「2 附属学校の使命を果たす」については大きく改善した。

■教員が4グループに分かれて相互に研修を企画・運営する仕組みを導入したことによって、研究や研修に取り組む主体性が高まり、肯定的な自己評価につながっていると考えられる。各教員が、附属学校に期待されている役割を理解したうえで、自身の取り組みを肯定的に評価している教員が多いとみられる。

○A・Bを併せた肯定的回答が80%以下であったのは、学校全体・個人としてのいずれにおいても、「11 通信等の情報提供」のみであった（平成29年度は学校全体として1項目、個人として3項目）。

○Aと回答した割合が30%以下であったのは、学校全体としては43目（平成29年度は4項目）であり「4 校務分掌」で割合が特に低く、「3 教育計画遂行等」と「11 情報提供」がこれに続いている。また、個人としては、3項目（平成29年度は2項目）であり、と「11」が最も低く、「3 教育 計画遂行等」と「4」が同率である。

■国際交流など一部の取組に関しては、校内外に積極的な情報発信を行った。しかし、日常の取組において、学校だより、諸通信、web場での情報提供などを計画どおりに行えなかった。各プロジェクトにおいて、情報発信までをパッケージとした計画を立てて、実行することを定着させていく必要がある。